

# 「語られた銀座」のクロニクル

## —銀座をテーマとした都市論のレビュー—

The Chronicle of “Described Ginza”  
—The Review of Urban Studies on Ginza

宮下 貴裕 東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員  
Takahiro MIYASHITA

### 1. はじめに

銀座はこれまでわが国において最も多くの人々に語られてきた街の一つであり、書籍・雑誌といったメディア媒体に様々な知見が蓄積されている。これには、銀座煉瓦街に始まる明治以降の空間形成の展開がわが国における都市の近代化の象徴として認識されてきたこと、そして地震や空襲といった大きな困難に直面しながらも現在に至るまで日本を代表する繁華街としての地位を保ち続けてきたことが大きく関係していると思われる。本稿では戦前からの銀座をテーマとした都市論に注目し、それらの特徴別に整理を試みたい。

### 2. 分類Ⅰ —銀座の街の現状分析

銀座に注目した都市論としては、まず各時代の街の状況に関する分析を行うというアプローチが見られる。戦前期においては、当時高まりを見せていた「都市美運動」の文脈から銀座の都市空間を論じるものが多く、中でも都市研究家・椋内吉胤や彼が立ち上げた都市美協会は、銀座の「都市美」のあり方に関する議論を活発に展開している。これらにおいては、ヤナギの街路樹としての適当性（主に維持管理の問題から不適格との評価が下される）、乱立する電柱の撤去、銀座通りにおける露店の美観的・文化的評価といったテーマが狙上に載せられた。

戦災復興期には、空襲で大きな被害を受けた状況から木造の仮設店舗が建てられて商店街の再建が進められる中で、これらの商店建築を記録する試みがなされた。今和次郎らが考現学的見地から「商店の外装と看板」を刊行したほか、商業都市美協会も銀座通りに建ち並ぶ全ての建築のファサードを連続立面図として記録し、「昔と今の銀座大鑑」としてまとめている。石川栄耀が1936年に立ち上げた商業都市美協会の戦後

における活動はこれまで不明な点が多かったが、近年銀座通連合会の事務所から本資料が発見されたことで、その活動の一端が明らかになった。

1960年代になると、新宿や池袋といった新たな繁華街の台頭によって「銀座斜陽論」なる言葉がメディアに登場するようになる。このような状況において、芦原義信はモータリゼーションの急速な進行が都市の「内的秩序」としての商店街に与える影響について論じている。また清水馨八郎や杉村暢二は都市地理学的見地から銀座の商業地としての構造を分析し、他の繁華街との比較を行った。これらの議論は、個人商店の集積によって盛り場を形成してきた戦前からの繁華街が、変化する時代の中で大きな転機を迎えているという認識に基づいて展開されたものであった。

1970年に銀座通りで実施されるようになった歩行者天国は、銀座の「斜陽」を食い止める起爆剤となったと認識されることが多かった。若手の建築家・研究者で構成された都市デザイン研究体は広場論として銀座通りの歩行者天国に注目し、通常の商店街における歩行者天国が「その地区の住民利用によって成立している」のに対し、銀座通りのそれは「全都的スケールの吸引力がある」としてその特殊性を指摘した。1970年代後半からは「街並み」という観点から銀座を論じる言説が多く見られるようになり、「街並み論」のオピニオンリーダーである芦原義信は『街並みの美学』において「銀座通り改造案」と名付けたスケッチを発表した。これは一部の沿道建築の壁面を後退させて「入隅」を創出し、連続する壁面による「街並み」形成を目指すべきと主張したものであった。また林泰義・重村力らは、銀座通り沿道の建築のファサードに個性が失われてきていることから、街路樹に高木を採用することで景観にリズムを生み出すべきと主張している。

さらに1998年に策定された地区計画「銀座ルール」や2006年に創設されたデザイン協議会制度は銀座の

「街並み論」に新たな視点を提供することとなり、近年では建物の高さ・壁面線・ファサードなどに加え、「街並み」の形成に至る協議プロセスに対しても大きな関心が向けられるようになってきている。

### 3. 分類Ⅱ —銀座の史的研究

近代以降における銀座の空間形成については、藤森照信・初田亨・岡本哲志らによる建築史・都市史分野の研究を通して理解が飛躍的に進んだ。藤森は『明治の東京計画』で明治期に国家事業として展開された煉瓦街の建設に関する研究に取り組み、明治政府による計画立案の展開や設計を担当した建築技師ウォートルスの設計思想などを明らかにした。また「銀座の都市意匠と建築家たち」では明治から昭和初期にかけて様々な建築家によって展開された開発の歴史や、そこで取り入れられた建築様式の変遷についてまとめている。初田亨は近代日本における繁華街の形成史という観点から、銀座における明治以降の近代建築の展開や都市機能の変遷について明らかにしている。岡本哲志は江戸時代から現代までの銀座における敷地割や土地所有の変遷を明らかにし、各時代において展開された建築行為の方向性との関係を考察している。

そしてこのような工学的アプローチに加え、野口孝一は文化史的観点から銀座をテーマとした歴史研究を多数発表している。また子供服製造・販売業の老舗「ギンザのサエグサ」の経営者であった三枝進は、長年に渡って銀座煉瓦街の設計者・ウォートルスに関する研究に取り組み、彼が立ち上げた銀座文化史学会の研究誌『銀座文化研究』においてその成果を発表している。『謎のお雇い外国人ウォートルスを追って』は三枝と同学会による銀座研究の集大成と言える。銀座の史的研究は様々な立場の人々の知的探究の蓄積を通して、今日まで深化が進められてきたのである。

### 4. 分類Ⅲ —「一人称的」銀座論

銀座をテーマとした議論の中には、実際に地元で店を構える店主や銀座にゆかりのある文化人などが、自身の取り組みや人生経験などと関連させて街を語るというアプローチのものが多く存在する。銀座通連合会会長として様々な街づくり運動に関わった保坂幸治は、銀座通りのショーウィンドウを街のアイデンティティの表徴として認識し、連続するショーウィンドウ

によって街並みを形成していくことの意義を繰り返し説いた。この他にも雑誌等では銀座の店主らによる座談会が多く掲載され、資生堂社長の岡内英夫や福原義春、セイコー社長の服部禮次郎、くのや社長の菊地泰司ら銀座通連合会の会長・理事長を務めた経営者たちも、銀座の街の取り組むべき課題やその未来像について語っている。そして1990年代以降は、「銀座ルール」の策定や「銀座街づくり会議」の発足などを通して地元による街づくりへの注目が高まり、より活発な「銀座論」が地元側から発信されるようになってきている。

### 5. 分類Ⅳ —銀座の都市構想

銀座はその注目の高さゆえに、度々ケーススタディや研究プロジェクトの舞台となってきた。戦前には共同建築化の推進に取り組んでいた都市美協会が、銀座7丁目の1ブロックを対象地とする「建築設計懸賞競技」を開催した。ここでは関東大震災後の状況について「未だ無統制なる小建築の併列を見るが如き実情は都市美観上誠に遺憾に堪へざるところ」と述べられ、1階-3階を店舗、4階以上を貸事務所とする設計案の募集が行われている。また戦災復興期には、東京都商工経済会が主催した帝都復興計画設計競技の入選作品として吉阪隆正による「銀座復興計画案」が発表された。吉阪は集客施設と交通機関の偏在によって来街者の混雑が問題化していると考察し、高架道路と一体化させた沿道建築を整備することで通過交通を処理し、既存道路を歩行者に開放するという構想を披露している。

銀座の地元店主らも自らの街の未来に向けた都市構想の立案に取り組んだ。銀座における商店・企業の若旦那衆によって構成される青年団体・銀実会は、設立25周年記念として『銀の実 銀座未来図』、35周年記念として『銀座ルネッサンス 銀座未来図』を刊行し、その中で彼らの手で立案された未来構想が発表された。そして1999年には銀座通連合会が設立80周年記念事業として「銀座まちづくりヴィジョン」を策定し、「水辺再生と路地の活性」「新銀ブラ計画-環境とコミュニケーション」「新しい銀座カルチャーの創造」という3つのテーマを掲げた。

### 6. 分類Ⅴ —銀座の街の写真集

銀座の都市空間や人々の日常生活の様子を長年に渡って撮影し続けた写真家としては師岡宏次の名が挙げ

られる。戦前期におけるモダン文化の隆盛、戦時下の代までに撮影されたものが写真集に収められている。生活や空襲、戦後の復興など、1930年代から1970年

表1 銀座をテーマとした「都市論」の主要文献

分類Ⅰ - 銀座の街の現状分析
Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Lists numerous academic and historical works about Ginza's urban development and culture from 1926 to 2017.

分類Ⅱ - 銀座の史的・地理的研究

Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Focuses on historical and geographical research of Ginza, including street layouts and urban planning from 1934 to 1996.

Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Continues the list of literature on Ginza, covering topics like modern architecture, photography, and urban planning from 1997 to 2019.

分類Ⅲ - 「一人称的」銀座論

Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Features first-person narratives and memoirs about Ginza from 1921 to 2017.

分類Ⅳ - 銀座の都市構想

Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Discusses urban planning and conceptual models for Ginza from 1935 to 1999.

分類Ⅴ - 銀座の街の写真集

Table with 4 columns: 著者, 発表年, タイトル, 出版社・掲載雑誌. Lists photographic collections of Ginza from 1929 to 1995.